

市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS



早朝5:30から除草に取り組む、松倉地区老人クラブ「高砂会」の皆さん

高砂会(会員29名)では、毎年県道を挟んで両側の畑に1,250本ものペコニアの苗を植え、晩秋まで地域の人やドライバーの目を楽しませてくれます。こんもりと咲き誇るペコニア畑となるには除草はかせません。今年はくしくも、大型台風10号襲来の日の作業となりました。

主な内容

CONTENTS

■平成28年第3回定例会概要	2
■6人の議員が一般質問	4~6
■特別委員会の中間報告	7
■委員会審査のあらまし	8~9
■先進地に学ぶ	10
■市政懇談会報告	12~13
■編集後記 ほか	14

第3回定例会

第3回定例会は、8月30日から9月16日までの18日間の会期で行われました。

本会議1日目に、栗林市長の市政報告が行われました。

市当局提出の専決処分報告1件、人事案4件、条例案3件、単行案1件、補正予算案2件、平成27年度市立大曲病院事業会計及び上水道事業会計決算の認定についての2件を、それぞれ承認・同意・原案可決・認定したほか、陳情2件のうち1件を採択、1件を継続審査とし、意見書案1件を原案可決しました。

平成27年度一般会計・特別会計決算19件については閉会中の継続審査とし、11月に決算特別委員会で審査することとしました。

一般質問は、2日間にわたって6人の議員が、市政全般について市当局に質問しました。



本会議2日目 一般質問

※第3回定例会の録画映像は、大仙市ホームページの議会のページでご覧いただけます
 〈市議会トップページ→議会中継（映像アーカイブ）→平成28年第3回定例会 本会議〉

人事案

▼人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて（全会一致で同意）

◇三浦廣咲氏（強首⇨再推薦）

◇宇野聖子氏（太田町東今泉⇨再推薦）

◇足達隆氏（長野⇨新規推薦）

◇鈴木農夫廣氏（太田町三本扇⇨新規推薦）

条例案

▼大仙市大曲墓園条例の一部を改正する条例の制定について（全会一致で可決）

大曲墓園に整備中の墓地区画の供用開始に伴い、墓園の位置、永代使用料を条例規定するほか、既存の墓地区画の永代使用料を見直しました。増設した墓地の永代使用料は、規制墓地（48区画）が37万円、自由墓地（36区画）が32万円です。

補正予算

▼平成28年度大仙市一般会計補正予算（第4号）（全会一致で可決）

歳入歳出予算の総額にそれぞれ5億8341万7千円を追加し、補正後の総額は464億97万円となりました。

主なものは、刈和野駅舎内にある西仙北ふれあい広場の改修や羽後長野駅自由通路の修繕に係る経費840万8千円、高齢者世帯等の道路除

雪後の間口除雪、住宅周りの除雪や屋根の雪下ろしに係る助成経費7296万3千円、今冬の道路の排雪等に係る経費2億5859万8千円などです。

▼平成28年度大仙市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）（賛成多数で可決）

平成30年度からの国民健康保険事業の県単位化に向けたシステム改修経費104万8千円です。

【反対討論】

▽藤田和久 議員（日本共産党）

本予算は、国民健康保険制度の県単位化に伴うシステム改修経費であり、医療費削減が狙いとされる県単位化に反対である。

県単位化により①保険料負担を抑えるための、自治体独自に行ってきた一般会計からの基準外繰り入れが困難になること②市独自の国保事業で行っている保険事業の拡充が困難になること③国保税の一元化などにより、国保税の引き上げが予想されること④後期高齢者医療保険制度や介護保険制度のように、住民の声や意見が届きにくいことなどの問題点が多い。

よって、本予算に反対を表明するものである。



日本共産党 議員
藤田 和久

Q 教育の右傾化等、
どう感じているか

A 中立法公正であることが
極めて重要

質問 教育の右傾化、道徳の教化、安倍政権と自民党による教育への干渉と介入について、どのように感じているか。

教育長 教育はその内容が中立公正であることが極めて重要である。教育行政を預かる者として、現在の政治体制に意見を述べる立場にないが「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」を目指し、本市教育の一層の充実を図っていく。

社会保障制度改悪ではないか

質問 安倍政権は、参院選公約発言を覆す改悪を進めようとしている。保育行政では規制緩和と詰め込みによる安全軽視、年金では「株高」を演出するための危険な株式運用、生活保護では「命綱」とも言われている母子加算の廃止を進めようとしている。医療や介護では要介護1・2

の生活援助などを保険からはずすなどの保険はずしや、後期高齢者(75歳以上)の窓口負担を1割から2割に引き上げるなどの負担増が進められようとしている。

どう感じているか

極めて重要

市長 社会保障制度は、将来を見据えて制度を改革していくことは不可避である。国の一定の改革により、社会保障の充実に向かうことを期待している。

質問 これ以上の社会保障の改悪を強行しないよう、全国市長会として検討できないか。

市長 社会保障制度改革の国への要請については、全国市長会を通じて、決議・提言を行ってきており、今後についても自治体の財政負担や被保険者の負担が過重とならないよう要望してまいりたい。



会 公明の大地
議員 大野 忠夫

Q 大仙市の
情報通信環境の現状は

事務事業の効率化、市民の
利便性の向上に努めている

質問 市内小中学校、市内企業、行政、防災・減災のタブレット端末の活用状況について伺う。

市長 小中学校では、ノート型パソコン1124台を平成31年度までに全てタブレット型パソコンに置き換える計画で、また、教科学習や学校行事等でタブレットの活用が始まっている。市内企業のタブレット端末等の活用状況について、市内企業59社を対象に調査を行ったところ、活用している企業は全体の27・1%、16社であった。行政については、秘書課が2台整備し、特別職のスケジュール管理や出張中・会議の際に必要な関係資料の閲覧などに活用している。防災・減災への本市での活用については、現在、事例はない。今後のタブレット端末の活用については、業務の効率化等に資する道具としてふさわしいか見極めつつ、情報通信技術の進展に伴う新たな機器やサービスなども視野に入れ検討していく。

側溝流末の改良を

質問 仲町丁内数力所の側溝が、丁内会館裏で1カ所に統合し、岳見橋県道交叉部のサイフォンが流末となる。雄物川の増水で逆流し、災害につながる恐れがある。有効な解決策はないか。

久米副市長 この側溝は雄物川河川区域内にあり、国交省が管理している。水路の終点付近で県道を横断しており、県道の構造的制約のため、常時横断暗渠内に水がたまるサイフォン形式となっている。増水時には水路の流末である神宮寺第一排水樋管が閉じられ、逆流は発生していない。加えて通称「下町堰」からの逆流防止のため、県道横断箇所逆流防止機能のあるフラップゲートが取り付けられている。



会 公明の 大地・秩父 博樹 議員

Q 被災者支援システムの導入を

A 導入に向け、準備を進める

質問 災害が発生した場合、被災者の援護を総合的かつ効果的に実施でき、被災者の状況を的確に把握し、迅速な対応が可能となる被災者支援システムの導入・運用を提案する。

市長 このシステムは、り災証明の発行のほか、救援物資・仮設住宅の管理など、被災者に関する多岐にわたる支援ができるシステムとなっているとともに、災害時に係る職員の仕事負担を軽減することにより、職員の過労死など二次災害を防ぎ、被災者のサポートに、より多くの職員を割り当てることが可能となる。導入に向けて準備を進めていく。

視覚障害者の支援を

質問 市内に住む弱視者の暮らしを支援するため「大仙市日常生活用具給付等事業」の一覧に、大活字図書や、音声と画像で読書ができるデジタル録音図書（デージー図書）を加えていただきたいが、当局の考えは。

老松副市長 大活字図書に関して

は、市立大曲図書館の510冊をはじめ、各地域の図書館にも相当数備え付けられており、全体では959冊の蔵書がある。日常生活用具の利用動向や近隣自治体の今後の動きを注視していく。

子育て応援アプリの利用は

質問 大仙市の特徴に合わせ、柔軟に情報提供ができるツールの一つとして、アプリの利用を検討し、子育て支援事業に活かしていただきたいと思うが。

老松副市長 市のホームページはスマートフォン用サイトも設定されており、見やすい環境となっているので、掲載内容の充実、情報提供の仕方など、より一層市の発信する情報に触れていただけるよう努める。子育てアプリ等の導入について、まずは子育て世代が希望する情報の種類や収集方法についてそのニーズを調査し、ホームページで対応できないか検討する。



新国会 渡邊 秀俊 議員

Q 住民サービスに支障を来さない

人員配置を要望する

A 効率的な人員配置を行い、住民サービスの維持・向上に努める

質問 定員適正化計画と今後の組織のあり方、人員配置のあり方は。

市長 組織機構や事務事業の見直し、人材育成の充実・強化、計画的な職員採用、介護保険施設・保育所、幼稚園の社会福祉法人化、民間活力の活用などにより定員の適正化を進めており、平成30年の目標850人は達成できる見込みである。

支所機能は維持し、定数外である再任用職員の活用により、平成30年以降においても860人程度を維持し、本庁と支所の役割を明確にして効率的な人員配置を行い、住民サービスの維持・向上に努めていく。

第3セクター等の

今後のあり方は

質問 第3セクターや関連施設の今後の見通しは。

市長 温泉施設については、一般の民間企業が指定管理者制度により運営している施設は、今後10年間に譲渡・売却を進め、温泉機能に残す、

または他の施設に機能を移す方策を検討する。

第3セクターが運営している施設は、市の所有のもと、改修等長寿命化を進めながら、継続して維持管理していくが、抜本的な対策を講ずるべき時期にきていると認識しており、29年度中に方向性を示したい。

中央斎場の運営は

質問 新しくなった中央斎場において、火葬炉前での故人との別れの場がなくなったのはなぜか。

市長 ご遺族や会葬者の心情に配慮し、葬儀儀礼を厳粛かつ静ひつに進めていただくため、告別ホール・火葬炉前ホール・収骨室では、他のご遺族や会葬者と交錯しないようにしている。待合室に設けた遺影台や待合室での火葬中の水のお供えについては、ご要望を取り入れながら、お別れの場の改善を検討してまいります。



市民クラブ 議員
佐藤 隆盛

Q 中体連主催以外の大会にも、同様の補助を

A 補助金交付要綱の基準を整理し、支援の充実を図る

質問 中学生のスポーツ大会出場

では、中体連主催等の大会には派遣費を補助しているが、全国レベルの大会が多種にわたり年々増加している。中体連主催等の大会以外でも、補助金交付要綱を見直しし、同様に補助すべきと思うが。

教育長 中体連等が主催・共催する

全国・東北大会には2分の1、その他の大会でも、予選を勝ち抜いた場合は「教育長が特に認めたとき」とし、3分の1を補助している。補助率の違いはあるが、予選を勝ち抜いた全ての大会を補助対象としており、今後「補助金交付要綱」の基準を整理するとともに、中体連主催以外が主催・共催する大会の補助率についても検討していく。

また、児童生徒の活躍を一層支援するため、特に全国大会へ出場する際の補助額等を精査し、来年度に向けて、支援の充実を図っていく。

派遣費支援の具体的な内容は

質問 市長は市政報告で、スポーツ少年団の全国大会等出場に係る派遣費について、今後は支援の充実を検討すると述べているが、その具体的な内容は。

市長 派遣費は、東北大会については予選を通過する大会は、団員が交通費と宿泊費の2分の1、指導者については全額補助し、予選のない大会についても団員が4分の1、指導者に2分の1を補助している。全国大会では、団員が交通費と宿泊費の3分の2、指導者に全額、予選のない大会についても、団員が4分の1、指導者に2分の1をそれぞれ補助している。

今後も、子供たちの夢と希望が実現でき、その活躍が市民に元氣と感動を与えられるよう、特に全国大会へ出場する際の補助額等を精査し、来年度に向けて、支援の充実を図っていく。



日本共産党 議員
佐藤 文子

Q 新しい総合事業で、これまで同様のサービスを受けられるか

A 現行同様、利用できるようにしてまいります

質問 要支援1・2の方が介護保険の予防給付で受けていた訪問介護

と通所介護は、市が行う地域支援事業として、新たな介護予防・日常生活支援総合事業に移行するが、要支援者はこれまで同様のサービスを受けられるか。

市長 要支援の方が総合事業の利用へ完全移行するのは平成30年4月1日としている。要支援1・2の方で、現在訪問介護や通所介護を利用されている方は、選択によって引き続き現行と同様のサービスを利用できるようにしていく。

軽減特別措置廃止の影響は

質問 政府は、後期高齢者医療制度発足時から設けられていた保険料

軽減特別措置を廃止しようとしているが、その場合の影響について市の現状を伺う。

市長 特例措置を含めた軽減の対象になっている方は、実人数で1万3106人で、全体の79%となつて

いる。この特例措置の廃止を28年度当初賦課で換算した場合、影響を受ける方は約1万2000人で、負担増となる保険料の総額は約1億2800万円となる。

地方公営企業化中止を

質問 簡易水道事業及び下水道事業への地方公営企業法適用は、料金の引き上げとは決して別問題ではない。改めて地方公営企業化を中止するよう求める。

市長 地方公営企業法適用による企業会計の導入は、資産台帳を整備し、財務諸表を作成することで、事業運営における財務状況を明確にするために不可欠である。また、減価償却の仕組みが導入され、消費税計算の特例を受けることで、節税・経費節減につながる。事業運営の透明性の確保と経営の健全化にもつながり、直接料金の値上げに反映させるものではない。

公共施設等総合管理計画調査特別委員会 調査・審査結果

公共施設等総合管理計画調査特別委員会（委員長 児玉裕一）は第3回定例会で、2回目の中間報告を行いました。

◎ハコモノ施設に対する提言

【行政系施設】行政系施設については、平成28年第1回大仙市議会定例会において、中間報告を行っておりますが、その後、市からの公共施設等総合管理計画（案）の提示により、さらに協議を深めた。庁舎については、各支所の旧議場や資料保管などのスペースを、地域住民の理解を得ながら、複合的な有効利用が図られるよう、協議を進めていただきたい。また、公的機関への貸し付けなど、住民サービス機能の集約を図り、支所としての将来見通しを立てていただきたい。その他、行政系施設については、3月の中間報告のとおりである。

【コミュニティ施設】公民館については、生涯学習推進施設に限定せず、使える施設は学校も含め、生涯学習事業を推進すること。集会施設は、住民の意見を聞きながら、自治会等への譲渡を基本に進めること。音楽交流館については、特定の団体が利用しているため、他施設の利用を促し、施設全体を企業等から利用していただくような方策を検討すること。ペアーレ大仙については、同じような事業を民間でも行っているの、指定管理から、今後5年以内を目途に、完全に民間経営へ移行することなどを、検討いただきたい。

【福祉保健施設】各地域の保健センターは、十分に施設が活用されていない。地域住民のために、有効利用すること。

【産業施設】農産加工施設は、直営で経費をつぎ込むのではなく、生産者の所得を向上させる意識を醸成し、これを意識した活力のある団体等を育成し、貸し出しすることなどを検討すること。畜産施設の牧野については、廃止後、他に利用価値がないか検討を加えること。水産施設のふ化場については、市として行政効果があることをPRすること。産業研修施設は、施設の目的を十分に達成できるよう、指導助言すること。

【観光施設】温泉施設では、地域への影響を勘案しながら、将来的には、民間経営への移行を検討すること。道の駅なかせんについては、抜本的対策が必要と考えるので、検討すること。資料館について、集客力も考え、展示場所の再検討を行うとともに、立地条件の良いくらしの歴史館は、民間への売却等も検討すること。

【生活基盤施設】市営住宅は、地域ごとに事情が違う。廃止に至っては、民間への移行も必要だが、空き家を活用することも念頭に入れること。

【学校施設】東部地区の給食センターは、食数が減ることが予想されることから、将来的に統合して1箇所とすることを検討すること。また、民間への完全委託を考えること。

【その他施設】体育館等を使用するスポーツ少年団などは、親の送迎が通常であり、広域的な施設の利用が可能であるので、踏み込んだ削減を検討すること。公認等を受けた施設については、整備して、長寿命化を図っていただきたい。



各施設の現地調査

◎施設全般に対する提言

公共施設等総合管理計画の策定の最終段階に向け、特別委員会としては、将来の大仙市の課題である人口減少、財政状況等を勘案した中間の意見として、次のとおり提言する。

- ①特別委員会が出された意見については、補助事業等による償還計画との整合性を踏まえながら、出来る限り、総合管理計画に反映されるよう要望する。
- ②既存施設の部屋別の利用状況を把握し、効率的に利用を図るため、全施設のカルテを整備すること。
- ③市が借りている土地は、できるだけ無くす方向で考えていただきたい。
- ④施設を継続するということは、適正に使用できるよう維持管理が必要で、施設を残すのであれば、使用できる状態に管理しなければならないことを念頭においていただきたい。
- ⑤工夫すれば他の施設でも行うことができるのに、その施設で実施しなければということで残されている施設があるのではないか。この計画の中で廃止の方向となる施設が出てこなければ、目的は達成されないと考える。
- ⑥建設当時と現在では、状況が変わっており、多くの施設において、事業等の目的を達成する手段として使用されていない。当初の目的について所管課所等でよく考え、目的が達成された施設は廃止も検討されたい。

上程された議案は関係各委員会に付託され、審査が行われました。主な質疑は次のとおりです。

総務民生常任委員会

条例案1件、補正予算案2件、陳情2件を審査しました。

サービスの

重複しないか

【問】空き家・高齢者世帯等除排雪事業について、地域包括支援センターが窓口になっている、高齢者等雪対策総合支援事業とサービスの重複するところはないか。

【答】基本的には、高齢者等雪対策総合支援事業で支援していくが、緊急の事態に対し、空き家・高齢者世帯等除排雪事業で支援していく。雪対策総合支援事業は70歳以上の高齢者世帯等、空き家等事業の方は65歳以上の高齢者のみの世帯等で、70歳以上ではほぼ重複しているが、緊急を要するときは総合防災課担当の事業で実施する。

【問】平成27年度の巡回調査の実施件数は何件か。また、台風等の時、空き家の巡回はどのような体制なのか。

【答】巡回調査の件数は、空き家が1079件、高齢者世帯等が835件となっている。また、巡回は危険度の高いところから、支所職員も含め巡回しているが、後は組織での体制をとっていく。

県単位化でどうなるのか

【問】国民健康保険事業の県単位化により、大仙市に係わる標準保険料率がどうなるのか。また、一般会計からの法定外繰入を行って、保険料を上げないようにしてきた経緯があるが、こうしたことが県単位化になることができるのか。

【答】今回の補正によるシステム改修後、県にデータを提供し、県では10月から、税率・納付金等の試算を行い、県と県内市町村で構成する「秋田県国保運営方針等連携会議」において協議を進めていくことになる。標準保険料率等については、今後分かり次第お知らせする。

また、法定外繰入については、国の方針もはっきりしないこともあり、現段階ではお答えできない。

企画産業常任委員会

条例案2件、単行案1件、補正予算案1件を審査しました。

農業委員の登用は

【問】農業委員の地域に対する割り振りは。

【答】地域に対する割り振りはないが、各地域から最低2名以上を任命したい。

計画的に

できなかったのか

【問】消防庁舎の建て替えはもっと計画的に進めることはできなかったのか。また、今後の財政にも影響があるのでは。

【答】平成26年の耐震診断の結果、防災拠点として重要性が高いことから建て替え協議されたものだ。財政計画には盛り込み済みで、合併特例債を活用するため、今回、新市建設計画の変更をするものである。

国際花火シンポジウム

関連事業の内容は

【問】スポンサー企業の訪問や旅行会社へのPR活動は、どのような内容か。

【答】花火打ち上げに係るスポンサー企業募集のため、東証一部上場企業を訪問する。また、東京、大阪及び東北の旅行会社へ訪問し、PR活動をするものである。

【答】返礼品を望まず、純粋に大仙市を応援したい寄付と返礼品を望む寄付の両立が可能であることと、委託料も考慮して決定した。特産品の売り込みをメインに、お米とお酒を返礼品に設定して、寄付増を目指したい。

熊等の安全対策は

【問】仙北市、美郷町と連携して行う、みずほの里へのサイクリングコース整備について、周辺は熊の目撃もあり安全対策が心配される。また、周辺の観光施設の活用などはどうなっているのか。

【答】コース策定に携わるアドバイザーに実際に現地を走行していただき、安全対策についても提案を求めたい。観光施設の活用については、休憩所や自転車置き場の整備なども考えられることから、支所等関係部署と連携して進めたい。

ふるさと納税制度の

検討内容は

【問】インターネットによる寄付申込み受付サイトを決める際、どのような検討がされたのか。



教育福祉常任委員会

専決処分報告1件、補正予算案1件、決算認定1件を審査しました。

福祉施設の現状は

【問】市内の福祉施設は不足しているのか、それとも飽和状態なのか。

【答】現在、特別養護老人ホーム等の長期広域型施設は、市内では約500人の待機者があり、その方々は居宅型の介護サービスを利用してはいる。特に、今回の補助対象となっている小規模多機能型の施設については、認識及び認知度が高くないため利用されていない部分もあり、そのような点について周知する必要があると思われる。今後どのような介護施設の種類が必要かということも十分検討しながら、整備の方向付けをしなければならぬと思っている。様々なサービスの組み合わせを考えてみたい。

利用の多い地域は

【問】高齢者等雪対策総合支援事業は2年目だが、雪下ろしの多い地域は。

【答】昨シーズンの実績は104世帯で、件数は大曲地域が多い。毎年見直ししながら取りこんでまいりたい。

当初予算に計上を

【問】小・中学生ウインタースポーツ推進事業費は、毎年補正で計上されているが、当初予算に組み込めないか。

【答】今年度までは、直近の実績値で積算していたため、当初予算に間に合わなかったが、過去3年間の実績から算定することとし、来年度から当初予算に計上したい。

平成27年度市立大曲病院

事業会計決算を認定

【問】回収見込みがない未収金はいくらあるか。

【答】3月末現在で約690万円あるが、通院者には窓口で、在宅者には電話や訪問して納付をお願いしている。

建設水道常任委員会

補正予算案1件、決算認定1件を審査しました。

市街地再開発に併せて

できなかったのか

【問】厚生医療センターとねむのき駐車場の間の市道「駅前10号線」の歩道に消雪施設を整備するが、大曲通町市街地再開発事業に併せて整備できなかったのか。

【答】市街地再開発事業の中で駅前10号線の車道の消雪施設を更新し、併せて歩道の消雪施設についても整備を要望したが、当時、井戸は既存のものを使っていたため、水量の問題で歩道への整備はできなかった。今回周辺で、他の路線の消雪施設の井戸が崩落し、どうしても今年の冬までに新たに井戸を掘削しなければならぬ状況となり、この井戸を有効活用するため、これまでできなかった駅前10号線の整備についても併せて

て予算要求した。



消雪施設が整備される駅前10号線

平成29年度から

実施する理由は

【問】今年度より、除雪業務受注業者のJV化(企業共同体化)を進める中、大曲地域だけは平成29年度から実施することだが、その理由は。

【答】大曲地域は業者が19社と他地域に比べて非常に多く、除雪路線も複雑に入り組んでいる。当初は大曲地域も一つのJVを検討したが、JV化した場合、指示・連絡体制が円滑にいかない

のではと懸念されたため、現在、大曲地域の工区を分割することも検討している。この分割に当たり、効率的な除雪路線にする組み合わせ等も必要になるので、もう1年時間をいただきたい。

平成27年度上水道事業

会計決算を認定

決算審査意見

①水道使用料の徴収について鋭意努力されている姿が顕著に認められるので、引き続き的確な収納対策を推進されたい。

②事業は計画どおり順調に進んでおり、当該年度の経営状況は概ね良好で評価されるものであるが、現在の宇津台浄水場更新事業、老朽化した玉川浄水場の更新を勘案すれば、将来にわたって多額の負債が予想されるので、適正なる経営を求めらるものである。

③簡易水道事業の企業会計への移行に伴い、将来、上水道事業へ一本化する場面に備え、経営状況や財政状況を十分に精査するよう努められたい。

企画産業常任委員会

糸島市で「農力」を学ぶ



豊後高田市で移住定住施策を学ぶ



7月13日から3日間、東京都文京区と福岡県糸島市、大分県豊後高田市を視察してまいりました。

糸島市では「農力を育む基本計画」とJA糸島の産直市場「伊都菜彩」について学びました。同市では、農業者はもとより市民や食品業者の役割や責務を明確にするなど市全体で「農力」が育まれており、施策も農家の所得向上を第一に取り組まれておりました。「伊都菜彩」でも農家の所得を考え糸島産にこだわっており、加工品であっても材料の1つ以上は糸島産を使うことを条件にする徹底ぶりでした。

豊後高田市では移住定住施策について学びました。同市はスロライフを売りに、子育て世代の優遇やスマホを使った情報提供など、若い世代にターゲットを絞った施策が多く、ここ2年間で80人近い社会増があり「売りとターゲット」を明確にした施策が効果を上げておりました。

その他、文京区では花火産業構想の一環である花火資料館に設置する花火シアターの最新映像技術について学びました。

(委員長 後藤 健 記)

7月19日から3日間、北海道石狩郡当別町の当別ダムと札幌市の(株)日本除雪機製作所を視察しました。

当別ダムは、県内で計画されている成瀬ダムと目的や総貯水容量等が概ね同じ規模であるため、現状を視察しました。ダム型式は台形CSGというもので、最寄りから発生する砂礫に、水とセメントを配合し生成されたものを原材料として作られるダムです。成瀬ダムの中央コア型ロックフィル形式に比べ、工事費が約3分の1に抑えられ、環境に優しいダムと言われているとのこと。8月1日

に、成瀬ダムもこの工法に変更すると東北地方整備局より発表があり、タイムリーな研修となりました。

(株)日本除雪機製作所は当市へも多くの除雪機械を納品しており、その製作工程や製作期間等について研修しました。それぞれの自治体によって仕様が異なることから受注生産となることが多く、そのため工期も7~10ヶ月かかるとのことでした。メンテナンス等で当市を訪れることも多く、除雪作業に支障のないよう努めているとのことでした。

(委員長 佐藤育男 記)

建設水道常任委員会



当別ダムの内部構造を視察



ロータリ除雪車の製造工程を視察

広報広聴常任委員会

白山市で議会だよりの編集と子ども議会の開催について学ぶ



8月24日、石川県白山市で議会広報の視察を行いました。白山市の議会広報誌は、若い世代が読みやすい広報誌として、コンクールで優秀賞を受賞されております。地元の大学生が表紙のデザインを担当し、横書きに転換したり、印刷会社のデザイナーの意見の採用など工夫を重ねておりました。大仙市の議会広報誌もこれらを参考にし、読みやすい議会広報誌の編集に努めてまいります。

次に、大仙市でも開催したことのある「子ども議会」について調査をしました。白山市の「子ども

議会」の特徴は、議会での質問と答弁の両方を、中学生が行っている点です。答弁する人は十分な準備が必要で、36名の中学生が1泊2日の研修を行っています。質問だけでは、本当の地域のことが分からないという意見が出たそうです。白山市の中学生の自主性を育てる、社会参加を促す「子ども議会」を参考にして、大仙市の「子ども議会」に生かしてまいりたいと思います。

(委員長 石塚 柏 記)

〔7月〕

- 5日 議会運営委員会・広報広聴常任委員会
- 7日 公共施設等総合管理計画調査特別委員会
- 12日 第3回臨時会
- 13日 企画産業常任委員会「行政視察」(～15日)
- 19日 建設水道常任委員会「行政視察」(～21日)
- 22日 広報広聴常任委員会
大仙市・仙北市・美郷町議会議員交流会
- 29日 教育福祉常任委員会「所管事務調査」

〔8月〕

- 5日 公共施設等総合管理計画調査特別委員会
- 23日 議会運営委員会
総務民生常任委員会「所管事務調査」
- 24日 広報広聴常任委員会「行政視察」(～25日)
- 30日 第3回定例会(第1日)
会派代表者会議・企画産業常任委員会協議会
議員全員協議会・広報広聴常任委員会
公共施設等総合管理計画調査特別委員会

〔9月〕

- 7日 第3回定例会(第2日)
会派代表者会議・議会運営委員会
- 8日 第3回定例会(第3日)
建設水道常任委員会協議会
決算特別委員会・同委員会分科会正副会長会議
- 9日 総務民生・企画産業・教育福祉常任委員会審査
- 12日 建設水道常任委員会審査
- 14日 議会運営委員会
- 16日 第3回定例会(第4日)
議員説明会
- 23日 広報広聴常任委員会
- 29日 広報広聴常任委員会



大仙市・仙北市・美郷町議会議員交流会での研修の様子

用語の解説

【出納閉鎖】

出納閉鎖とは、地方公共団体の会計処理において、当該年度の歳計現金の移動を全て終了し、出納を完結させることをいいます。官庁会計における会計年度は、原則として当年の4月1日から翌年の3月31日までの期間ですが、地方自治法の規定に基づき、出納閉鎖(整理)期間(翌年の4月1日から5月31日までの期間)が認められています。

出納閉鎖期間は、前会計年度中に確定した歳入の調定及び支出負担行為について、未収及び未払いとなっている現金の出納上の整理を行うものです。この期間に、新たに前年度分の調定及び支出負担行為をすることは認められていません。

決算特別委員会審査日程

- 11月4日(金) 全体会(審査方法、日程等の確認)・分科会審査
- 7日(月) 分科会審査
- 8日(火) 分科会審査
- 9日(水) 分科会審査・事務調整
- 10日(木) 全体会(分科会会長報告・全体審査)

FMラジオで議会の活動を紹介

10月は高橋幸晴議員、11月は大山利吉議員が議会の活動を紹介します。ぜひお聞きください。

FMはなび 「市議会だより」

毎週金曜日 10:15～10:30

毎週日曜日 12:45～13:00 (再放送)

毎週火曜日 18:45～19:00 (再放送)



12月定例会日程のお知らせ

- 11月28日(月) 本会議第1日(市政報告、議案上等等)
- 12月7日(水) 本会議第2日(一般質問)
- 8日(木) 本会議第3日(一般質問、議案質疑、委員会付託)
- 9日(金)・12日(月) 常任委員会審査
- 16日(金) 本会議第4日(委員長報告、質疑、討論、表決)

※現時点での予定であり、変更される場合があります。
変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。

議長交際費 (7月1日～9月30日)

項目	件数	金額
予算額		1,050,000円
既支出額	22件	210,480円
今回支出額	18件	327,760円
内訳	弔慰	1件 10,000円
	慶祝	13件 123,360円
	協賛	4件 194,400円
予算残額		511,760円

市政懇談会でいただいたご意見・ご要望の回答について

6月27日から7月1日までに開催した、大仙市議会「市政懇談会」の回答について、議会の常任委員会等で検討いたしましたので、お知らせいたします。その他いただいたご要望等については、広報広聴常任委員会で協議し、市長へも文書で通知いたします。

No.	会場	いただいたご意見	回 答
1	南外地域	地域に根差した産業に力を入れ農家収入増につなげるべきではないか。	南外もダリアなど力を入れている農作物があるが、なかなか収入に結びついていない。議会としても農家所得の増につなげるよう考えている。所管事務調査を行い、引き続き検討・協議していく。
2		南外4号線は合併前から力を入れており、SPF豚センターができれば主要道路となる。市でも完成を早く進めるようにしていただきたい。	今年度用地買収をし、来年度から工事に入る。31年ぐらいまでかかる。
3		林業の振興についてどのように考えているのか。共有地も多く、税金も負担になっている。	花火産業構想で松炭と杉炭に使えるよう検討している。林道整備にも力をいれているし、バイオ発電にも力を入れてきている。共有地については、市に寄附をして税金がかからなくなった例もある。所管事務調査を行い、引き続き検討・協議していく。
4		市としてCO2削減に向けた再生可能エネルギーに活用する産業に取り組むことは考えていないか。	所管事務調査を行い、引き続き検討・協議していく。
5		買い物空白地解消に向けた施策の具体的な方向性は。	具体的には決まっていないが、地域と行政が一緒になって検討していきたい。所管事務調査を行い、引き続き検討・協議していく。
6		南外小学校と神岡小学校が統合になる計画はあるか。	地域をこえて合併することは、今のところ計画はない。地域に1つは守る方針である。
7		南外地区の道路工事の状況はどうなっているのか。	1号線は今年度中に完成する。県道バイパスについては30年度までに完成予定。
8		共有地があるが、相続の問題がある。なにかいい方法はないか。	登記がとれずに、寄附や売買ができない例がたくさんある。保安林にすることも1つの方法だと思う。
9	はびねす大仙	冬期間の行政経費を減らすため、例えば、山間部に暮らしている人を、冬期間は市街地で暮らしてもらうなどできないものか。	委員会でも所管事務調査等で検討していく。
10		政務活動費（年間18万円）は、どのように使われているのか。	調査研究、研修、広報、資料作成、資料購入に関わる経費で、主に交通費、宿泊費、講師謝金等に使われて、全て公開している。個人では使えない活動費のため、自費で活動している議員もいる。
11	内小友地区	駅前開発をしたことによって、にぎわいは戻ったか。	昔のようになぎわいは期待できないが、他市の商店街に比べるとがんばっていると思うが、もう一度話し合いをしていきたい。所管事務調査を行い、引き続き検討・協議していく。
12		地区の話はまとまっているので、水道の事業予算化をしてほしい。小出沢の道路を補修してほしい。	水道に関しては同意書をもって提出していただければ予算化できる。道路は現地を確認して補修することになっている。
13		若者と議員の話し合いの場があるか。なければ今後、そういう場をもっていったらいいと思う。	中学生議会を開催している。若者の意見は参考になる。
14		集落25軒のうち空き家が5、6軒ある、今後も増えると思われる空き家をどうしたらいいか。	補助金はあるが、所得制限がある。解体はできないと思うが、自治会で相談しながら片付けたりするというのも一つの方法ではないかと思う。
15	角間川地区	川のまち交流館等の、川みなどの取り組みについて伺う。	まだ実施前なので、要望があれば言っていただきたい。
16		予算の報告はあるが、決算の報告がない。財務内容の精査を、第三者的な公認会計士などによるチェックが必要ではないか。	決算報告は今後、検討していく。また、財務内容については、ホームページで公開しているので、見ていただきたい。
17		防災ラジオの配布についてどうなっているか。	高齢者等、要件にあう家庭には無償配布する。購入する際は、半額程度の市の補助になる予定である。
18	神岡地域	宇留井谷地の堤防工事の内容と、間倉地区の途切れている堤防の今後の見通しを教えてください。	工事期間は12月までで、2工区に分かれており、5億円くらいの事業費。嵩上げと堤防の強化をしている。良好に進んでいると報告を受けている。今後も国にお願いしていきたい。
19		合併特例債の延長等など、情報を知りたい。	広報などで知らせていきたい。
20		大火は強風の時に多い。消防車の巡回を強風のときにこそ行ってほしい。	消防に伝えたい。

No.	会場	いただいたご意見	回 答
21	中仙地域	若い人たちへの具体的な政策はあるのか。	福祉医療、母子保健推進、むすび・サポート事業、子ども・若者育成推進事業、保育士の就労奨励、不妊治療の公費助成、放課後児童クラブの拡充等。その他、国にも所得の向上や、公衆無線LANの拡充をお願いしている。
22		各財産区の特別会計とは、市の予算を使っているのか。	使っていない。各財産区単独で運営している。地方自治の関係上、市議会への説明責任があるため掲載している。
23	西仙北地域	西仙未来塾（若者がどのようにして地域を盛り上げるかの会）に参加できないか。	若者が対象の会である。
24		ユメリアの今後と、ユメリア祭りはどのようにして決まったのか。	ユメリアは大改修して存続。祭りは、大綱引き冬の本番だけではなく、綱引きをする機会をつくるため、西仙スポーツクラブ、保存会、建元さんと協議をして、スポーツ綱引きを行うこととした。
25		市立大曲病院事業会計の収支予算では、市からの持ち出しはあるか。	一般会計から2億3千万円くらいある。
26		上水道事業会計の収支はどうなっているのか。	黒字会計となっている。
27		予算の中で、目的別公債費と性質別公債費の金額の差はなにか。	繰上償還をしているため、約8億円の差が出ている。
28		市債の残高総額は。	合併当初1,058億9,200万円あった。平成20年度1,107億8,600万円となり、現在969億1,900万円で、平成30年の目標残金は600億円である。
29	協和地域	協和地域の養豚場は臭いがすごかった。南外地域に養豚場ができるようだが、議員の皆さまには公害がでる前に対策をしっかりやってもらいたい。	協和地域では臭気を年1回測定していて、問題はない数値ではあるが、鼻では感じるものがある。議論をして万全な対策を取っていききたい。
30		国際花火シンポジウムがあるが、協和地域での予定は。	関係者が能楽の鑑賞、協和体育館での夕食会、昼花火の打ち上げが予定されている。
31		先進地に学ぶということで徳島県上勝町に行っているが、もうちょっと詳しく教えてほしい。	非常に過疎が進んでいる集落であったが、市、JA、市民との連携がとれていて、経営状態が調った村だった。
32		スポーツ施設は整っているが、さらに利用してもらうために、宿泊施設が必要でないか。	地域の活性化にもなると思う。スポーツ大会が常時あるわけではないので、まず今ある協和の施設を満室にして使って、次に交通の利便性がいいので、近隣の施設を利用してから考えていきたい。
33	太田地域	児童生徒の減少で部活動ができない状況にある。小中学校の統合についてどう考えるか。	小中学校の統合については、現在白紙であるが、地域の機運が高まれば検討に入る。部活動については、中体連の方に要望していく。
34		西仙北地域で太陽光発電を行っているが、借金をしてまでやる意味があるのか。	リース事業であり、順調に運営されており、収益も上げている。
35	仙北地域	介護予防事業に取り組み、保険料が下がっている自治体がある。議会としてもそれら先進地を視察して、効果がある取り組みを参考にすべきではないか。	介護保険は広域の組合ですので、要望として伝えておきます。
36		払田ニュータウンのような新しい集落の町内会の所属について、特に市で販売した分譲地の場合、既存の町内会との合併、単独の町内会など考えがあったのか。	市で指導することはできないと考える。



少子・高齢化の中で限界集落も出てきている昨今、移住・定住そして観光とマスコミでは取り上げられています。3世代と考えると100年の長さはいくらか見えると思います。大曲の地区では都市計画が進み、中心地区では100年、200年は変わらない形ができあがってきています。住んで良かったと思える場所でしょう。ただ、旧町村では、住むための基礎の部分の行政・学校・病院・介護施設・スーパーを充実し、その中に住居を中心と

した計画的な開発はまだまだです。時代の流れで、経済中心的な事業が進められ、ほ場整備などで美しい田園風景ができあがっています。これからは、住む人を中心にした事業を進めてほしいものです。

8市町村が合併した大仙市なので、各地区にも100年単位でしっかりした施策に取り組んでほしいと思います。

(太田地域 60代男性)

大仙市の歴史巡り (大曲地域)

八幡神社 (鎮座地：大曲丸の内町4-6)

土屋館八幡神社には八幡太郎義家にまつわる伝説がないのが特色で、「羽州秋田神社縁起」の文中「向に、どや館と申処に阿弥陀堂、観音堂」とある阿弥陀堂が八幡神社になった、と菅江真澄は考証しています。

祭典は陰暦5月15日、さつき八幡まつりですが、飲食店の八幡丁の芸者、女中さんたちが旧14日の宵祭りに、初めてその年の新しいゆかたを着てお詣りする風習が残り、ゆかた祭とも言われます。祭典は田植えのころ厳粛に営まれ、本来は田植え祭で、豊年満作を祈願したものです。

参道の左側には、有名な「虎王丸の層塔」がさや堂に納められ、すくっと立っています。

大曲丸の内町にある八幡神社の「ゆかた祭り」や価値高まる「虎王丸碑」など、歴史を探求してみたいかがでしょうか。

(佐藤育男 記「大曲市の歴史散歩より抜粋」)



八幡神社 (拝殿)



石造五重塔 (通称 虎王丸碑)



編集後記

人々に感動を与えた大曲の花火競技大会、そして500歳野球大会と大きな行事が、大会関係者の御労苦と市民の皆さまの支えにより、盛会に終えることができましたことに深く感謝申し上げます。

さて、議会だよりも今回で46号となりますが、より見やすく、関心を持っていただける議会だよりもしようとして検討を重ねております。このため、8月24日より2日間、議会だよりのさらなる向上を目指し、石川県白山市に研修に行ってきました。白山市では、議会だよりは情報が入り口ととらえ、文章の簡素化を図り、余白を有効に利用するなど、見やすいものになっております。

だいせん市議会だよりは、多くの情報を伝えようと編集しておりますが、白山市議会だよりのように見やすさを優先し、併せて議会ホームページ等の充実も検討していければと考えております。

今後も、関心を持って読んでいただける議会だよりとなるよう努めてまいりますので、よろしくお願いたします。
(佐藤育男 記)

広報広聴常任委員会

委員長 石塚 柏
副委員長 小山 緑郎
委員 秩父 博樹
佐藤 育男
佐藤 文子
橋村 誠
高橋 幸晴
小松 栄治
渡邊 秀俊
大山 利吉



編集/大仙市議会広報広聴常任委員会
印刷/株式会社松本印刷